

紙

Paper

INTERVIEW

Toshiki OYU #39

39号車ドライバー 大湯 都史樹

まずまずの
ポテンシャル

TODAY'S RACE Rd.3
Sportsland SUGO
6.22 SAT/23 SUN

RACE ARCHIVE
Rd.2 AUTOPOLIS

#3 a Head Wind



INGING
MOTORSPORT®

SUPER FORMULA 2024 VERTEX PARTNERS CERUMO • INGING RACE REPORT

www.inging.co.jp



RACE ARCHIVE

Rd.2 AUTOPOLIS

オートポリス 決勝

5月18日(土)に行われた公式予選では阪口晴南が4番手、さらに大湯都史樹も復調の兆しをみせ11番手と、上位を狙える位置につけた VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING。決勝レースでの好結果を目指すチームは、5月19日(日)の決勝日に臨んだ。このオートポリスは、国内のサーキットのなかでも最もタイヤに厳しいと言われる難コース。41周の長丁場のレースで、いかにペースを高く保つか、そしていかにスタートを決めるかが重要となる。午後2時 50分からの決勝レースに向け、チームは午前10時からのフリー走行に臨んだ。

阪口、好感触でスタートを切る!

8,900人の来場者が見守るなか、迎えた午後2時50分からの決勝レース。気温24度/路面温度38度というコンディションのもと、1周のフォーメーションラップを経て決勝レースの火ぶたが切られていった。例年、スタート直後にはアクシデントも多く発生するオートポリスでのレースだが、今回はクラッシュ等はなくオープニングラップが進んでいく。阪口は4番手から好感触でスタートを切り、予選順位のままトップ3を追っていった。フリー走行で得たフィードバックとともに変更したセットアップの感触も良好だったが、トップ3が速い。阪口は持てるポテンシャルをフルに活かし、上位に食らいついていった。一方の大湯も好発進を決め、序盤は9番手につけていく。

息を飲むエンジニアたち

このレースで重要になるのはレースペース、そして戦略だ。チームはタイヤのグリップダウン、トラックポジションなどを検討しながらピットインのタイミングを探っていく。作業を終えコースに戻った際に、遅い車両に引っかかってしまう恐れもあり、エンジニアたちは慎重にタイミングを見定めた。

勝敗をわけるピットイン

まず12周目にピットインを行ったのは阪口。チームは迅速に作業を進めるが、右リヤタイヤに時間がかかってしまう。コースに復帰すると、先にピットインしていた #6 太田格之進に先行を許してしまった。一方、大湯はレース後半にピットインする作戦をチョイス。フリー走行からセットアップは改善されており、大湯は安定したペースでラップを重ね、終盤ニュータイヤで追い上げる作戦を採った。ただ26周を終え、走行全車のうち最も遅くピットインした大湯だったが、ここでまたも左リヤの作業にミスが出てしまいタイムロスを喫してしまう。コースに復帰してみると、大湯の順位は16番手。序盤ポイント圏内を走っていただけに、痛恨のポジションダウンとなってしまった。

わずかに速さが足りない

序盤にピットインしていた阪口は、レース後半に向けてもタイムの落ちは少なく、セットアップの良さを感じさせるレースとなっていたが、それでも今回上位に食い込んだライバルたちに比べると、わずかに速さが足りない状況だった。阪口は #6 太田を追いながら戦いつけたが、終わってみれば6位でフィニッシュすることになった。

挽回を図る大湯

ピットアウト後、ニュータイヤでひとつでも順位の挽回を図りたい大湯だったが、10番手以下の集団に抑え込まれてしまう。特に今回スポット参戦だった #19 ベン・バーニコートとの攻防では、大湯は何度も行く手を阻まれ、ファイナルラップにコースアウトを喫するほど。それでもダメージなくコースに戻った大湯は、15位でチェッカーを受けた。

課題が見えたピット作業、そして次戦へ

2台ともにレースペースは悪いものではなく、十分ポイント圏内を見据えるものだったが、ピット作業がふたりの足を引っ張ることになってしまった。チームは次戦以降ふたりを助けるべく反省し、6月のSUGOでのレースに臨む。

a Head Wind

Results	38	予選	4位	決勝	6位
	阪口 晴南				
	39	予選	11位	決勝	15位
	大湯 都史樹				

TODAY'S RACE Rd,3

INTERVIEW #3

Sena SAKAGUCHI

戦略は悪くない

38号車ドライバー 阪口 晴南

フリー走行ではポテンシャルが足りない印象があったので、攻めたセットアップをしたのですが、レースでは今週いちばんの感触を得ることができました。スタートも決まり、ポジションを守って走ることができ、実際レースのフィーリングも悪くなかったのですが、

トップ3はさらに一段上のペースで走っていたので、さらに上げる必要はなかったですね。戦略は悪くはありませんでしたが、ピットでミスもあって。自分が止まる位置など、しっかり原因を見つけないといけないですね。レース後半のペースも悪くなかったのですが、前進していることは感じましたが、ここをベースとして、次戦 SUGO ではトップグループに追いつけるよう、さらに上を目指したいと思います。



39 | まずまずのポテンシャル

39号車ドライバー大湯 都史樹

Toshiki OYU

スタートはうまくいきレース後半までピットインを引っ張る作戦を採りました。その作戦自体は悪くなかったと思いますが、ピットでロスが出てしまいました。終盤に追い上げたかったのですが、バーニコート選手に何度も阻まれてしまって。とはいえ結果的に15位となってしまいました。朝のフリー走行のことを考えると、決して良いわけではありませんが、まずまずのポテンシャルがあったと思っています。ただ予選での課題が解決しているわけではもちろんし、決勝でのペースも中団で走っていたかな……というくらいです。次戦 SUGO は得意なわけではありませんが、成績が出ているコースなので、しっかりと改善し、準備をして臨みたいと思います。

チーム強化が最優先

チーム監督 立川 祐路

Yuji TACHIKAWA

阪口選手についてはレースウィークを通じてフィーリングも良好でしたが、決勝では上位の数台に比べるとペースはまだもうひとつ足りていませんでした。次戦に向けて、ロングランのペースを上げなければいけません。その点は頑張りなければと思います。一方大湯選手については、パフォーマンスを出し切れない苦しい戦いのなか、頑張ってラップを重ねてくれていたのですが、ピットでロスが出てしまいました。ふたりともピットでミスが出たので、チームとして情けなく感じていますし、ドライバーに申し訳なく思っています。次戦に向けて、しっかりとチームとして強化しなければいけないと感じています。応援ありがとうございました。



Sportsland SUGO 6.22SAT/23SUN

To be Continued...

